

言葉の責任 ネットの被害者・加害者にならないために ～命の大切さ、人生の大切さ、あきらめない心～

【講師】 タレント スマイリーキクチ 氏

1993年、芸人コンビ「ナイトシフト」を結成するも、翌年、相方の芸能界引退によりピン芸人に転向、スマイリーキクチとして活動。笑顔と穏やかな口調ながら、するどい切り口のトークを特徴として、メディア等で幅広く活躍。また、自身のネット中傷被害の経験から、ネット犯罪の恐怖や対策について全国で講演活動を行っている。

【講演内容（概要）】

死にたいと思ったことはない。僕が死んだら誹謗中傷した人は達成感を感じ、僕が幸せになることが、中傷した人への仕返しになると思っています。



「20年たった今も、誹謗中傷は続いている。」

スマイリーキクチさんは、1999年、ネット上にまったく関係がない殺人事件の犯人だと書き込まれ、中傷や脅迫を受け続けました。9年後、警察は書き込んだ人物の摘発に着手しました。最終的に19人が名誉棄損や脅迫で摘発されました。しかし、誹謗中傷は今も続いているのです。



「テクノロジーは進化している。しかし、情報モラルは伴っていません。」

デマがあふれるネット。感情を表現できない人、想像力のない人が発信する言葉は、「刃物」になり人の心を刺します。にもかかわらず、交通安全の「止まる」「見る」「待つ」は小さいころから繰り返し指導されていますが、インターネット上の「危険」「確認」「判断」は十分に教えられていません。メディアリテラシーを身につける必要があります。



「正義感と暴力は紙一重。情報の正しさを疑う感性が必要！」

エコーチェンバー（自分と似た意見や価値観をもつ人とだけつながること）、フィルターバブル（その人に好ましいと感じる情報だけを優先的に表示すること）、ネットでは自分のほしい情報に浸りがち。その結果、自分が正しいと信じ込んでしまうことが多い。したがって、「悪い人を懲らしめている」という正義感は危うい。得ている情報の信ぴょう性を疑う「正疑惑」（クリティカルシンキング）が大切です。



「ネットの向こうに居る、見えない人とやり合ってはダメ！」

ネット等の情報は、鵜呑みにできません。どんな人が潜んでいるかわからないからです。少しでも違和感を感じたら、周囲の人に相談しましょう。また、「許せない」と思っても、ネット上の同じ土俵に上がらない「スルーア」ももっておきたいものです。



「誹謗中傷する人は、人で遊んでいる。しかし、私は人と遊んだ。」

笑顔で、相手を幸せにする言葉を使うことで、毎日を楽しむ。「足を引っ張る」より「手を引っ張る」人になりたいものです。そうすることで、手を差しのべてくれる仲間がたくさんできます。

